



ごあいさつ

8月20日
防災訓練での栗市長

平成29年9月7日

北朝鮮が度重なるミサイルの発射を繰り返し、9月3日の正午には6回目の核実験を行いました。ミサイルが日本上空を通過するのはわずかな時間ですが、それが日本国内に落ちる可能性もあります。憤りとともに、何もできないもどかしさを感じます。市としては国民保護計画や、市の防災計画に従った避難を含めた行動を促していくこととなりますが、いち早く正確な情報を市民の皆さんにお知らせすることが大切です。万が一のときは、落ち着いた行動をお願いしたいと思います。

8月20日に市内全町内会を対象とした総合防災訓練を行いました。今年の5月から地区の防災リーダーの皆さんが中心となり、避難所開設運営連絡会を開催し、研修を行い、当日は地域の皆さんにより市内10箇所の拠点避難所の開設、運営、閉鎖までを実際に行っていただきました。現在は、各町内会からのアンケートを集計しており、これからの課題も出てくることになろうかと思えます。

今回のように、避難所の開設運営など、自分たちの地域は自分たちで守るという自主的な行動が災害時にはとても重要になります。訓練を重ねることにより、改善しなければならないことや、不安な部分を取り去ることもできます。そのようなことが防災への意識を高めていくことにつながるのではないかと考えております。

また、これからの時期、台風や豪雨への備えも必要です。最近の雨は短時間に集中するような降り方です。市内では宅地も増え、雨水があふれる危険性の箇所もあり、ハザードマップを参考に、ご周知いただきたいと思います。雨水排水の整備や、心配される河川の改修などは計画的に進めております。

さて、「学びの杜ののいち カレード」の開館記念にいくつかのサプライズがあるとお伝えいたしました。9月の「広報野々市」などにも掲載いただきましたが、11月3日には米林宏昌監督、19日には小説家でもありながら多彩な活躍をされている荒俣宏氏のそれぞれ、講演会が開催されます。

図書館や市民学習センターの複合施設がいよいよ完成するという事で、多くの市民の皆さんから、「とても楽しみにしています」といったお声をいただきます。待望久しい建物なので、そのように思っただけことがうれしい反面、いささか重圧も感じています。

単に本を借り、この施設を利用していただけというだけでなく、「カレード」は、多くの図書資料とさまざまな市民の皆さんの活動に対応できる施設機能を存分に利用し、賑わいを創り出す拠点と考えています。創業に役立つ図書を集めたコーナーの設置や、創業に関心のある方のための創業塾、ビジネスセミナーなどを計画しています。野々市市内に本社がない企業にも、ご協力いただく「企業版ふるさと納税」の申し込みを現在募集しておりますが、寄附金は図書館の蔵書の充実やセミナーの運営に活用させていただきます。

今月の1日から10日まで、「野々市市美術展」が開催されます。この美術展の作品をはじめとして、いつも感心するのは、生活や仕事以外で野々市の市民の皆さんが持つ潜在的にものを創り上げる力です。

この可能性を秘めた土壌に、新たに「学びの杜ののいち カレード」が加わることにより、予想もしないすばらしい効果「化学反応」が起きるのではないかと考えています。重圧を感じるというより、ワクワクした期待感なのかもしれません。